光

（11）

大正十一年五月

◇眞實の棄恩……西田天香
◇光―祈り……森川禮二郎
◇愛より道徳へ……中桐確太郎
◇詩二篇……藤井悌
◇子供の福田……M N 生
◇西國行……松下吉衛

同人　懺悔報恩の奉仕者
祈願　不二の光明による生活
費用　供養されたる浄財

◇烏の子……天香
◇獨白……八田勝三
◇山陰線上より……藏田清子
◇リリのナイフ……松下生
◇在園中の思出……金森乾三郎
◇返照錄……遠近兄姉

一燈園◦宣光社

大正十年八月五日第三種郵便物認可（毎月一回十五日發行）
大正十一年五月十五日印刷納本　大正十一年五月十五日發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し、許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜して歸一の大願に參ぜん。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成二就大圓覺一

別願　將二來世界眞平和一

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し、報恩の爲に行乞せん。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脫るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ、世諦を成ぜん。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生產業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せん。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天園、文明の隆興も進化の事象も乃至清規戒行も、此の見地よりすれば則ち一の遊戲三昧に過ぎず。憾むらくは箇中の消息、もとよく言辭の髣髴し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。

天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して倘自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその清規によりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絕し、以て齊家、治國、平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

眞實の棄恩

西田天香

一燈園の建物は園生活の門に過ぎない。十字街頭がほんとの道場である。けれども訪ねて下さる方は始めは大てい此門にきて下さる。門は何と云うても小さい建物に過ぎない。六七十人もきて下さると滿員以上である。一人一人が十字街頭に奉仕するもの丶、ほんの一時の足溜りであり、又生活洗禮の場所でありまする處に、一時に澤山な光友がきて下さることは、うれしい事ではあるけれども、如何にもまとまりがつかず混雜が多いので御迷惑が多い。隨分色々な滑稽な事や、又すまぬ事である。

けれども皆さんもようがまんをして下さる。何と云うても、よろしいとの御返事もせぬうちに押しかけてきて下さつたもの故でもあらう。又そんな事の準備が出來てゐるものとも初めから、思うて下さらぬ爲めでもあらう。園もよう辛抱が出來たもの、又きて下さる人も辛抱をなされるものである。

第一からなると、誰が何といふ方やら分らなくなる。永い間すむでなし。短い人は一寸見物なんていふ氣の方もある。半分程はよく覺えても、半分程は名前を覺える丈に骨が折れる。來園の時は必らず一度は私が、來園の理由を聞く。併しそれが時々混線する。甲の顏の方に乙の履歴を連想する。又極めて眞面目な方を身を持ち崩してきた方と思ひちがへなどをする。深く其人々の內容の精粗純雜を調べさせてもらふ事などは容易でない。忙しい間にちぎれ〱の樣子から判斷して、調べさせてもらふ事より外はない。京都に一しよにゐても、相對してシンミリ語り合ふなどは中々に六ケ敷いから、かうした機會にちぎれ〱をつなぎまとめて、其人の眞相を見せてもらふことになる。

先月の始め一寸東京にいつたとき岡崎市へより、講話をすませて、會場なる寺の御堂から庫裡へはいる其途端、或若い眞面目な一燈園の托鉢者が申します。此方は淨土宗の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

寺を繼ぐべき人なのである。

『愈寺を出て此生涯にたつつもりです』

『一寸おまちなさい。もしさうなされば師匠さまはどうなるかな。』

『何とかやりますやらう』

　私は此話しを聽きずてには出來なんだ。それは餘りに情誼に乏しく報恩の念が缺けてゐる事を直覺したからである。『何とかやりますやらう』の一語はもう私をそのまゝにするを許さなんだ。はなしする時間がないので汽車にのせて島田迄同車して、車中色々話したのである。私の瞬間の感想は

『何とかしますやらう』には淚がなさすぎる。新生涯も世の人情に無關心であるのではない。己れの本體は別のものであつても、それが種々の因緣に引出されて親しく人情の世界に手を垂れる。そこには十二分の情と愛が必要である。『何とかしますやらう』は理窟に過ぎぬ。若しも情に執着しすぎて超越することの出來ぬときは、棄恩入無爲の立場へこよ、そこには何もかも新たに情を整へる事の出來る道理がある。冷かに何とでもなります』位の事は云うてなぐさめる事もある。併し本當を云へば師匠にチャンと滿足と安心を與へてあとをつぐべきである。それから更に大なる願と祈りの爲めに脫却してくるのである。からして十分師匠の身になり寺の身になりして泣いたあげくでなくてはならぬ。泣きあかした揚句に、心配して盡したあとに、氣を更へて云うた言葉として『何とかやりますやらう』といふなら落着がないでもないが、あまり無造作に云うてのけて少しも餘情の綿々たるものゝないのは、自分は落付かぬ。そんな態度である人の、あとの托鉢奉仕は同じく餘韻がない、溫かみがない、庭を掃けば只庭を掃いた丈であり、椽を拭けば唯椽を拭いただけのことである。『一人出家九族生天』底の福田のわく筈もなく、又其人の托鉢によつて其家に新らしく和ぎがふえるなどは及び絕えたことである。ひよつとすると、師匠にも常日頃あまりに喜ばれぬのであつたかも知れぬ。そんな事なら、執着も捨てゝきたのでもなく、斷ち難き恩愛を斷つてきたのでもない。どうせ出なければならぬのを、新らしい生活、生活の改造などゝ好題目をとなへて避難したことにもなる。飛んでもない功利的の方便に用ひたことになる。恐ろしき事であるまいか。とであつた。それでも靜かにこのよしを語つた。すると

『けれどもさうでありますまいか』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

『さうであるといふことをさうでないといふのではない。棄恩入無爲の説明だけなら、新らしき生涯が徹底すれば、師匠は何とかするのでよいはずである。よいはずであれども、そんな曖みのない心での入無爲なら、眞の無爲でもなく、又徹底した新らしき生涯でもない。』

『ではどうしたらよろしいか』

『その云ひかたも、あら〳〵しい。これは理窟でない、情である。たとへば私がかう云ふ事をも、まづとりあへず成程と受入れて、ありがたうといへる心が必要である。鷺を烏と云うてくれてもまづ一度は成程親切にとよろこぶ心が必要なのである。何を云うてもその様な受け方では親切にいふものもなくなるし、その心が、無造作に何とでもやりますやらうと云ふてのけられる大きくいへばすなほでない心である』

まだ彼れの顔は力みかへつてゐる。固くなつてゐるその固くなる心、何とかくだけて呉れるやうと祈りつゝ默した。しばらくすると彼の心はくだけて柔和になつて呉れられた

『なるほど分りました。私がわるかつたのです實は……。』

と寺にありし間の不行屆などをも懺悔してくれた。私は非常にうれしかつた。私の友人の工場につれてゆき

『そんなら、私のいふ通りに一ペン出直して見てもらへるか』

『よろしい、どうぞ敎へて下さい』

『では一度普通の職夫になり又人夫になりなつて見なさい。次ぎに一度眞の路頭に立つて見ること。第三に師匠の寺と師匠の人に改めてあやまり且恩をしたゝか謝することである。さうしたあとにあらためて寺を出て一燈園においでなさい。それがほんとの入園の態度です』

と云うて工場主に紹介した。工場主は園の人といふので非常によろこんでくれる。彼れもコロツト變つてやさしうなり立派に仕事をさせてもらうてゐる。

この一寸した物語りは。一つはたゞ『師匠は何とかやりますやらう』との言葉から起つた直覺をたよりに調べて見たら、こんな結果になつたので。澤山な方々に、よしあしともにもつと靜かに調べあふ機會があつたら中々に結構である。その方法を一刻も早く祈りたいものであるといふことを思はしめるのと。一つには棄恩入無爲、新らしき生活奉仕の行などゝ、これが各人からほめられ珍重がられすると。ほんとに輕はずみで浮足で、在來のものをすてゝくるといふやうな事になるのを恐れて氣をつけたいからである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

新生涯はそんな浮足のものであつてはならぬ。家を出るのは、執着せぬ爲めである、逃げてくるのであつてはならぬ。罪を感じ懺悔にくるのである、痛快がつたり、徹底がつたりするのでない。かうしてその托鉢者の態度には、最も眞摯な氣持、放虔な氣分、祈りがちな態度、寂びたしんみりした擧動が自然にあらはれねばならぬのである。けろ〳〵したり、卷煙草を口にしながら串談半分にからかつたりするやうな態度の出やうはずがない。

家をすてるのは多くの家を拾はん爲め。肉身のものを直接養はぬのは、更に澤山な人類が自然に養はれるやうな事に身を捧ぐる爲め。恩愛を斷つのは大恩愛を觀ずるから起るのであるべきだ。

から澤山な方々が、一時に來園される。どの方に愚はなく、又不眞面目である筈はないが。たゞ私がしみじみと語りあふ時間が少いので。かうした事が、そのまゝになつて一寸深く相談すると立派なことになるべき人の氣づかずに、簡單にやつてゐられる事がないとも限らぬ。それを私はすまぬとおもふ。おわびをしますと同時に、その足らぬ處を皆樣の反省でたしてもらひたいとお願する。

◇

○本號表紙の題字は水戶義公光圀卿の自叙傳ともいふべき壽藏碑陰の銘中より頂きました（實物大）。筆文共に有名なるものです。左に掲げて諸君と共に朗誦したいと思ひます。

先生常州水戶產也。其伯疾其仲夭先生夙夜陪膝下戰々競々。其爲人也不滯物不着事尊神儒而駁神儒崇佛老而排佛老。常喜賓客殆市干門。每月暇讀書不求必解。歡不歡歡憂不憂憂。月之夕花之朝斟酒適意吟詩放情。聲色飲食不好其美。第宅器物不要其奇。有則隨有而樂胥無則隨無而晏如。自蚤有志編史然罕書可徵。爰搜爰購求之得之微遴以稗官小說。摭實闕疑正閏皇統是非人臣輯成一家言。元祿庚午之冬累乞骸骨致仕。初養兄之子爲嗣遂立之以襲封先生之宿志於是乎足矣。既而還鄉即日相攸瑞龍山先塋之側。瘞歷任之衣冠魚帶載封載碑自題曰梅里先生墓。先生之靈永在於此矣。嗚呼骨肉委天命所終之處水則施魚鼈山則飽禽獸何用劉伶之鍤乎哉。

其銘曰

月雖隱瑞龍雲、光暫留西山峯、建碑勒銘者誰、源光圀字子龍。

◇

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

光
――祈り――

森川禮二郎

誕生の神祕に初まつて育ちゆく狗の一生を顧みる時誰が其の不可思議なる力の働を思はないで居られやう。

これ等凡べてはあなたの裡にあなたに依つて成就するにあらざれば他の如何なる力によつても存在し得ないのを信じます。

此の明らかな事實に、愚かな私は今日まで殆んど氣付きませんでした。電車に乘つて走る時、私は其の不思議な事實に氣付かないやうに教育されました、科學は其の智識の應用によつて電車を發明し從つて其れを隈なく闡明する事が出來ると說き、私は其の說明を信じました。然し電車の動く事實及びそれを動かす力に思ひ至る時私は其處にあなたのお力を感じないわけにはいきませんでした、科學はあなた無しには何物をも發明製作することは出來ません。

のみならず私は今まで日常の事に於て自分が爲たのだと驕慢にも考へました、一本の鍬を執つて耕やし蒔種して饒

存在するものは凡べてあなたの裡にあなたに依つて在ることをはつきり知ります。

地水火風の四大、即無生物もあなた無くてはどうして成り立つ事が出來ませう。

路傍に轉ぶ小石も、小川を流れる水も地と天に燃えるあらゆる火も、微風、疾風、暴風雨もあなたに依らないではどうして在り得ませう。

一莖の草も一木の木も倭少な昆蟲も見苦しい毛蟲や美はしい蝶も果又獅子や象から吾々人間に至るまで凡べての生物はあなた無くしてどうして生れ育ち生存することが出來るでせう。

草の一葉を取つて仔細に檢する時、誰か其の構造の周密精緻なるに驚かないでせう。

梢上を飾る花を見て誰か其の美はしき造化の妙を讃へないでせう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

かに實る收穫物を眺める時、何時でも自分の力と勤勞を誇る頑くなゝ心を起しました。そして何の躊躇もなく人々の讃詞をうけ我が物顏に凡べての收穫を獨占しました、此の收穫に係はる天地の恩に思ひ及ぶことは露だもありませんでした。天地の業に較ぶれば自分の努力と勤勞とは數へるにも當りません、此の僅かな、自分の力だと思つて其の權利を主張した努力や勤勞さへ私の所有ではないのです。

あなたに與へられずして何で私に力がありませう。

私は炊事した時何時でも自分の仕事と親切とを妻や一家の者に對して窃かに誇りを感じます、然し炊事に當つて自分が爲た事は食器魚野菜を洗ひ、又は料理し、米を硏ぎ火を點じたに過ぎません、滾々として湧き出る水、洗へば溶ける汚物、煮えて溫かく美味しい飯副食物となる米其の他尙又炎々として燃える薪炭、其れより發する熱、是等は何等私が關知せず音も無く瞑々の裡に行はれるあなたの働を外にして何でありませう。

かく私が感覺し、知り、記憶し、想起し、感じ、行ふと考へて居た自分の身體心及び其の活動は凡べてあなたの裡にあなたに依つて在り且つ行はれる事を疑ひません、かく信ずる力さへも私の所有なのではありません。あなたに依つて信じさせて戴くのです。

あなたにとつては又あなたを信ずる者にとつては凡べての存在は善にして美である事を信じます、罪や惡でさへもあなたの裡にあなたに依つて在るのです。

迷へる羊は羊飼にとつては大切でそして可愛いゝに違ひありません。

私は罪人や惡人の前に、あなたに對すると同樣な恭敬な態度で跪き度いと希つて居ます、惡人の裡に苦しみ給ふあなたの慈悲深い忍辱に頭を垂れないでは居られません。

稍々もすれば擡げんとする侮蔑と憎惡の念を抑へる爲めに御業を行ひ給へ。

美しきものと共に醜きものも又あなたの裡にあなたに依つてある限り凡べて美はしい。あなたを信じあなたの裡にいき、あなたの榮光を顯はすために働く人々には凡べてのものはあなたの美はしきが如く美はしい、此の人が製作する場合其の藝術は凡べて尊い。

凡べてにして一、一にして凡べてなる光、儔ひなく善にして美なるあなたは讃むべきかな。

此の拙なき祈りをあなたの榮光を顯はす爲めに御使ひ下さい、縱ひまゝなこの希があなたの御座の許に達しますやう。

あなたの忠實な奴隸

（一九二二・四・一〇）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

愛より道德へ

中桐確太郎

左は矢張り、昨夏、或講習會にて申述べましたものの一節で、本誌前號の『愛に關する一考祭』の續きで御座います。同様御叱正を仰ぎたら存じます。

一

さきに申述べました通り、愛の活らきとは、自他一體感を他に對して實現することであります。そして、その實現は自己の身神を通してするの外はありませんが、自己の身體及び精神は、此の一體感を顯彰する場合、到底完全なることを得ぬのが常であります。かりに二つに別けて見ることが出來ませう。その一つは

（一）力量の不完全　であります。第一肉體は有限であります。いかに強い人でも大山の崩れ來るのを支ふことの出來ぬのは申すまでもありません。如何に長壽をたもつとも數百年に及ぶことは出來ません。往昔は七十は古來稀なりと申しました、追々長壽法も研究せらるゝことでせうが大隈侯にいたしましても、百二十五年と申すに過ぎません。しかも命數が盡きますれば、如何に思ひ慮ひましても、寸陰を延べ得ぬのがつねであります。倉田百三氏は、千手觀音が羨ましいと申されてありますが、實に身體はいくつあつても足らぬといふ感じは何人も經驗し得る處でありませう。身體が幸に健全であります時でも、決して之れで滿足といふことは出來ぬものでありますが、病氣や、生れつきの弱い身體の持主も決して尠くはないので、愛の活らき殊に獻身的にものせんと欲する場合に於て、有限なる肉體の爲に完全なる實現をなし得ぬことの多かるべきは當然のことであります。また精神上のいろ〳〵の能力から見ましても同樣であります。如何に優秀なる精神でありましても、その遺傳や、教育や、その他周圍の事情の影響を被らざるを得ないので、自他一體感を如實に實現することの上に多少の變化と蹉躓とを來さざるを得ぬのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

以上は愛の活らきに關して身體精神本來の成立ちの上から來る點より申したのでありますが、これほど本有的ではありませんが、種々の因緣上、殆んど必然的に伴うてをるものとも見るべき尙一つのものがあります。それは

（二）我執の邪魔　とも申しませう。我執とは、自我の眞相を自から誤解し、その自から誤解せる自我に固執愛着することであると、私は假りに定義しておきます。本當の自我とは、何であるか。これは千古の大問題でありませうが、此の肉體そのもの以外に本當の我がないと認め、その生存にのみ執心し居るといふが如きは、一つの我執であると思ひます。例へばこゝに一人の貧しき見るも哀れなる旅人が參つて助けを乞ふたとする。何人の心にも突差に起る感は、その時持てる一切を捧げて此方に差上げたいと思ふことでありませう。併しさう考へる側から、それでは自分がすぐ差支へる、もしくは、差支へなくとも何だか惜しい樣な心持ちがして、それを見合すといふやうなことがあつたといたしますと、——これはかく申す私も每々犯す恥かしい罪でございますが——これは愛の活らきが、我執の邪魔によりて、阻碍せられたものといふべきでありませう。我執は身體精神に痼疾の如くにこびりついてをるのがつねであります。

二

以上述べましたやうな不完全なる自己の身體精神を通して實現せんと欲するものでありますから、愛の活らきは、——多くの場合に於て献身的にあらはれんとする欲求は、自他一體感より發動して參りまする自然の要求でありますにかゝはらず、此等の障碍に逢着しまして、一種の必須的當爲の要求となつて心に感せられるのであります。此の必須的當爲の要求こそ、所謂道德的意識と名づけらるゝものでありませう。

道德的意識の起源如何は、哲學上、倫理學上の大問題でありますが、道德的意識なるものは要するに愛の體現的要求が、自己の身體の不完全なるによりて阻碍せられたる所に生ずるものなりと私は考へてをるのであります。蓋し一切の萬有は本來一體であります。只種々の因緣あるが爲に此の事實を明かに認むること難く、隨ひてまた此事實を具體的に顯現するとも意識的には努めて居らぬのが一般人間の常でありますが、自他一體の事實は根本的事實でありますし、また身神の不完全なるとも爭ふべからさる事實でありますから、如何なる人も心の奥底に此事實を體驗してを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ります筈です。そして此の體驗は潛在的觀念として存在し心理的條件さへ備はれば、いつにても解發することが出來るのであります。此の意味にて、良心は凡ての人間に遍在してをると申すことができませう。通常良心といふ語は道德的意識と同じことに用ゐらるゝのでありますが、道德的意識といふ語を、意識といふ方に重きを置きて顯在的なる場合に用ひることゝいたせば、良心といふ語はその潛在的なる方面をも含めて顯在・潛在兩方の道德的意識を意味するものと致すことが出來ませう。私は今此の使ひ別けをいたしまして良心といふ語を用ゐたいと思ひます。

　さて此の凡ての人間に遍在する良心は二の傾向を取つて活らくのが常であります。先づ何等かの機緣によりて、或る他と一體たるを感じ得たる事に伴うて良心の活きは生ずるものでありますが、その他が少數なる場合には更に多數に對して一體を感ずべきものなりといふ感が必ず伴ひ來るものであります。愛の活きを單に一人に止めず、更に他に及ぼすべく、一家内の愛をおしひろげ・一國に及ぼすべく更に之を世界の人類に及ぼすべく、更に禽獸草木に及ぼすべきものであることは、その出來ると否とにかゝはらず、人皆の認めつゝある所でありませう。これは本來一切萬有と一體なる潛在觀念が、一體感を或る少數者に限りたることに對する不滿の聲なりとも見るべきものでありませう、仙臺萩の演劇に於て、乳の人政岡が主君の一大事のためにその愛する一人息子を刺殺せるを觀、また同志への誓ひを守りて仇討の秘密をうちあかさず、遂に母や妻をして憤死せしめるを敢てしました赤穗義士の話を聞きまして、いろ〳〵の割引をいたすにしましても、大體に於て、人の良心が此等の事蹟を嘉賞しますのはそれ等のことが良心の此の根本的傾向に合するからではありますまいか。棄恩入無爲、眞實報恩者と申すことは深き體驗より出でたる語で、私共の容易に伺ひ知ることのできぬ境涯でありませうが、世にも深き恩愛を斷ち去ることのゆるさるゝのは一切他と一體たる大愛の境地に入るのであるからで、良心最高の要求に合するものであるからでありませう。とにかく自他一體感は無限の擴充を要求しつゝあるものでありまして、これが良心の活らきとなりて現じつつあるものであります。良心は此く無限に發展するの傾向を有しつゝあるものでありますが、また、自他一體感が廣大にわたり行けば行くほど、それをあらはすべき自己の身神は不足を感ぜらるゝの道理でありますから、自他一體感の廣大になりゆくに比例して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

良心の聲は一層痛切になりゆくわけであります。小さいものを小さき口より出すのは、さして困難ではありませんが大なるもの、宇宙大にも及べるものを五尺内外の身神を通してあらはさんとすることの困難なるは申すまでもありません。先にも申しましたやうに如何に優れたる方であつても肉身を取つて此世に現じてをらるる以上、肉體の力量も精神の能力も有限なるを免れぬわけでありますから、愛の大なる人ほど良心の感覺は鋭敏痛切なるべき筈であります。一切他と一體たるを感じ得るほどの大覺聖者に於ては一方心の欲する所に從ひて矩を踰へずといふ境涯があることでありませうが、また常人凡夫には思ひも及び得ぬ、なやみや、懺悔の念があることゝ思ひます。

私は曾つて懺悔といふこととを三種にわけまして、その一つに世間の苦惱と罪過とを以て自からの責任とする懺悔をかぞへ、それは大覺聖者方のいたかるゝところであると同時に多少の宗教的經驗を有するものゝ、幾分か參與し得る所であると申しましたが、此種の懺悔の根據は、萬有本來一體であるといふ事實に存するものであると思うてをります。

三

以上私は、自他一體感を他に對して具現せんとすることが、愛のはたらきであり、そして、その自然的なる具現的要求が、身神の不完全や、我執の邪魔によりて、必須的なるものとなつて來る時、之を道德的要求と申すのであると申したのであります。これ道德の究竟を以て愛の實現にありとなすものでありますが、愛と道德とはさやうなる關係を有するものでありませうか。世に認められつゝある道德的行爲なるものが果して皆愛といふことに歸すべきか否か、之を明かにする爲には、一々の德目につきて研究するのが順序であらうと思ひますが、今は一々之を申述べることを略さうと思ひます。只古來の德敎が佛敎でありましても、儒敎でありましても、基督敎でありましても、或は慈悲といひ、或は仁と申すなど、言葉はちがひますが、いづれも愛を以て、諸德の根元といたしてをるといふ事實が此立場を裏書してをると申すだけに止めておきませう。只こゝに一言申添へたいと思ふことは古今第一の哲學者といはるゝプラトーン及びアリストテレースの掲げたる主要の德に基督敎などに申す愛といふやうなる德目の無いことであります。これにつきて次ぎに私見を少しく申述べて見たいと思ひます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

聖アウグスチヌスは嘗て、プラトーンの掲げ、而してその後の學者によりて傳統的に認められつゝ來つた所謂る四元德、即ち節制、勇氣、知慧、公正、の四つは皆種々の形に於ける愛であると說いてをります。しかしながらプラトーン等は、基督教などにて說く獻身的の愛といふやうなものに重きを置いてをらなかつたのは事實のやうであります。これは後でニーッチェが基督教の道德を奴隸的道德と罵しり、希臘風の道德を貴族的道德として稱揚したるにても明かでありませう。然らばなぜプラトーン等の說に愛を重ぜなかつたのでありませうか。私はこれは希臘當時の國情がその主なる因由をなしてをるのであらうかと思ひます

希臘民族は御承知の通り、北方より南下し來り、以前より希臘半島に住居せる民族を征服して國を立てたのでありますが、國と申しましても、小さき半島に廿有餘國にも別れてをッたのでありまして、所謂都市國（シチーステート）で甚た小さいものであります。たしかアリストテレースの政治學でしたかに國を建つる十人では少ないが十万人では多過ぎるといふやうなことを申してをります。勿論此場合の國民と申すは、希臘民族だけでありまして征服せられたる先住民族は計算に入れてをらぬのであります。先住民族は文化も開け、數も多かつたやうであります。征服後餘り久しくならぬ時代に於て或國は四倍、或國は十倍程の先住民がをつたといふことですが、少數の希臘民族がその上に立ちて之を支配しつゝあつた有樣は、丁度最近の例では滿淸民族が漢民族に對する關係のやうなものであつたやうであります。即ち希臘民族は武力と政治とによりて之を統治してをつたのでありまして、いはゞ封建時代の士族のやうなものでありましたと思ひます。故に市民又國民と申しますのも、實は國士といふべきものでありませう。一種の貴族であります。故に所謂デモクラシーなど申しても現今の狀態を以て直ちに律することの出來ぬものと思ひます。歷史の變移するにつれて征服民族と先住民族との懸隔はだん／＼に少くなり、兩者は渾融するに至りますのは、何處の國の歷史にもあることですが、それにしても、希臘民族は、大體に於て、多數の奴隸賤民の上に支配階級として立ち、軍國の事に從事し、且つ學問藝術に悠遊し、以て貴族としての矜りを持してをつたものゝやうです。所謂希臘の文化は奴隸制の上に開ける貴族的精華であつたのであります。然るに彼斯との戰爭以來、文華煥發、文明の盛は當時の先進國を壓して雅典は世界の都となつたのでありますが、隆盛の胎內には衰

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

類の卵がだん／＼發育して參る例めしに洩れず、物質的文明と、人智の發達とは懷疑の思想と風紀の頽廢とを持ち來りて、青年の士氣も振はず、國士の操守も萎靡し、立國の基礎はその根底より腐朽し來り、政治の腐敗に伴ひて自由の氣象もいつしかに衰へ行き、遂にはマセドンの羈束を受け、國家の獨立も失ふに至つたのであります。プラトーンの出でた希臘の國は此の如き情勢にあつたやうであります

此の如き時代に於て、希臘文化に矜持を感じ、之を維持せんと欲しますならば、何より大切なことは、その根幹ともいふべき國家の組織を確乎たる基礎の上に置き、之を健全に持續せねばならぬことでありませう。これ有名なるプラトーンの國家觀の成り立つた所以であると思ひます。所謂四元德の如きもつまり此國家を維持する上について必要なる德目たるに過ぎませぬ。國家も一の團體生活でありますが、團體生活維持が道德的要求となり來る次第は別に申し上げたいと思ひますが、要するにプラトーン等の倫理觀に愛の德を數へてありませんのは、その當時の情勢に鑑みて、その特殊の國家を維持することの急務を切に感ぜられたる所より出でたるものであらうと思ひます、尠くも此事がその主なる原因の一つであらうと思ひます。

但しプラトーンにも有名なるエロース、即ち愛の說があります。その『對話錄』中の名篇「饗宴」中に於て、アリストフエネスをして說かしめたる戀愛觀、即ち人類はもとは二面四手四足の動物で、男性女性及び兩性の三種であつたが、餘り跋扈跳梁を極めたので、神々の怒にふれ、遂に各中央より二分せられたのである、同性愛や、異性愛はもとの一體にかへらんとするあこがれであると說き、更に、人間はもとは一體であつたが、罪惡のために神によりて切りはなされた。そこでもとの全一たらんとするの欲求願望を有するのであるが、是即ち愛であると述べてある說や、また同篇中にソクラテースをしてディオティマの言を引いて論せしめたる所によれば、愛は善美に對する憧憬であり、善美を所有し、これによつて更に善美なるものを創造せんとする努力であり、あらゆる文化の原動力であるといふことになつてをるのであります。此點より見れば、プラトーンも亦愛を諸德の根源と認めて居るものといつて可からうと思ひます。彼の所謂四元德は要するに、特殊の國家組織を維持し、そこに發したる特殊の文明を持續するために、各階級に屬せる人々の、自から守るべき道として說かれたるものに外ならぬと解すべきでありませう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

詩　二　篇

藤井悌

おきて

苦い藥をのむやうに
わたしは世間に出會つてきた。
かず知れぬ世間の掟・
それは活きてゆくためには
缺くことのできぬ持藥であつた。
このさゝやかな生命をつなぐにも
思へば涙のにじむやうな
かず／＼の忍苦と努力があつたのだ。

いま病みつかれ海邊にのがれて
波の上にへうべうと
靜かに落ちる雨脚を眺めながら
ぼんやり思ひ耽つてゐると、
この入海の岸を洗ふ潮のやうに
穩かに流れゆくわたしの魂にも
ときをり重い淀みができる。

さうだ、妻からの今朝の手紙、
それを通して眼に浮ぶ
人を判くさま／＼の顏、
世間はこゝまで追うて來てゐる、
持藥を忘れてはならないのだつた。

（十一、二、三）

諸天禮讚

ふたとせごしにディオニュソス
甦る夜はこよひかも。
峯の怪し火・まぼろしの火・

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

搖げり、搖げり、かぎりなく。

三千年の古への
トラキヤびとの物狂ひ、
いま眼のあたりわが見るは
われにも憑きしかディオニュソス。
ひそかに！ひそかに！
息をつめ耳を澄ませよ、
風が傳ふる樂の音は
いま急調に亂れたり。

見よ、ゆるやかなる白衣の姿は
樂の音につれて踊り狂へり、
ひそかに！ひそかに！
いま、息をつめて凝視せよ、
軀を逃るゝ魂は、
軀と同じ姿ながら
ほの白く、透きとほりて
同じ身振りに踊り狂へり。

かの十字架の文化は老いて
よろめき喘げり、古き世の
神々はまた眼ざめんとすらし。
さらば汝も、ディオニュソス、
永き永き囚はれの
幽冥界を脱れ來しか。
いまわれ聞けり、耳鳴りのごとく
つと通り過ぎし聲なれど、
かすかながらも朗らかに——
『偉いなるパーンは甦れり。』

十字架も貝多羅葉も光なし、
諸天禮讃のわれに命あれ。

× × × × × ×

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

子供の福田

ＭＮ生

大阪の相當な家の夫人である〇〇さんが、衣棚の天香さんの托鉢先きへこられて例の四疊半の粗末な部屋で何やら縫物をしてゐられる。天香さんは是又いつもの六疊の間であの机をひかへて手紙の返事の走り書きに餘念がない。めづらしく此時間は來訪客が少いので、〇〇さんが手を休めずに敷居越しに話される。

『天香さん、私は何だかおひかりといふことが少しづゝわからせてもらへるやうな氣がします。ほんの少しづゝですけど』

『それは結構ですなあ』

『まあ、第一ありがたいといふ氣持が出ましてなあ、それに勿體ないといふ氣になり、次ぎにきたない小さい話しでお笑ひになるかも知れませぬが、日々のおまわり(お菜のこと)にまで及びますのんで』

『それは有難いことですなあ』

『お笑ひやすな、實は今迄はほんの小人數で、小供なしのさし向ひですよつて、主人と同じに朝から料理屋ものをいたゞいて居ましたが。主人だけにしまして私はお夕飯の外は女中と一しよのものをいたゞきます。そうして氣のせいか女中と仲よしになつたやうな氣もして女中がよくきばつて呉れるやうにも思はれます。主人は、お前は一燈園へよせてもらふやうになつてから、顔の色がよくなつた、笑顔が出た、月の中に三日だけは行つてくるがよい、などゝ申されます。』

『それはよろしいなあ』

『心持がはき〲します、屈托が少うなります、つい表へ出て朝街道を掃きました。今迄そんなことをしたことがないのですが、表へ出て街道を掃きますと自分の家がそこまで廣まつたやうな氣がします。よそのうちが、きつちりと我家の前だけしかも丁度向ひ側と眞半分だけを掃いてあつたりしますとおかしうなります。もつと他々へと掃いてゆくのでそれだけ、自分の屋敷

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

がひろがるやうに思へますもの。そんなことをおもふのはわるいのですやろか。』
『なんの惡いことがありますものか。』
『それからいつのまにか、胃のわるいのが輕うなつたやうな氣もします。丁度今迄とは其反對ですもの。胃がわるい、藥をのむ、火鉢のはたに頰つゑをつく、いがんた顏を見せる、女中はおもしろないから陰氣な手前の部屋にくすぶります、何となく腹がたつ、用もないのに何かといひつけてあたります、よけいに頭もいたくなるといふ工合。街道を掃く相場ですかいな。按摩さんとなつてきますわ。少しぐらゐ節約したて何にもならぬ、それ何をあの此れをと料理屋へ注文する。そうしてそれが別においしうもないのです。主人が歸つてきましたかて、よい顏を見せませんもの。何んの主人かて柔しいことのみ云ふてゐられませう。それが此頃は丁度反對になつて、一家の內が陽氣になりました何となくおひかりてはこんなものかと思はれますの』
『かも知れませぬなあ。』
天香さんはにや／＼笑ひながら少しも筆を休めませぬ。○○さんは話しに身がいつて仕事はあまりはかどりませぬかくて兩方とも默つてゐられましたが、暫くすると○○さんが突如として言はれます。
『天香さん。私一つお願があります。きいて下さいますか。』
『きけますことなら。』
『へえ、……ひよつと斷られると失望しますよつて。』
『いうて御覽なさい。』
『妾、園ちやんがほしいのです（園ちやんは一燈園で生れた父親のない娘ですが、園で生れたから園ちやんというてゐる）
『それならだめです。』
○○さんは天香さんのにべもないあつさりとした斷りの返事に、餘程失望したと見えて、手に持つてゐた針仕事をそのまゝ急に下において、胸に手をあて、
『あ――どうしませう。』
天香さんもびつくりした。自分も驚いた。なぜかくも失望するものか。さるにても餘程思ひ込んでゐたものらしい。
『私はどうしませう。』
『何がです。』
『でもあの園ちやんがほしいばかりに、二度ゆく處を三

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

度參るのを四度參つたのですよ。』

『そうですか。實はあの子はツイ近頃いよ〳〵勝淳さんの家の相續者ときめましのぢやが、一體なんでそのやうにあの園子がほしなりました。』

『園ちやんをどうしても貰はうと心できめましたのは、二ケ月程前に、あの子をつれて法然院の方へ散歩した時です。お密柑を買つてあげて、「おばさんがもつてゐてあげますえ」といひましたら、元祿袖のたもとを出して「コヽエ」といはれます。「それは落ちます」といひますと。「おちやしまへん」といはれましたゆゑ、入れてあげたのですが。草むらをぶら〳〵歩いてあとに一つたべようとされますと、密柑は三つともないのですそのときヒョンナ顔をして私を見られましたので、「ソレ御覧落ちましたでしよ」といひましたら。「おばさんわたしがわるかつたでこらへて頂戴」といはれました。私はその時どうしようかと思ひました。あゝあんなにやさしくあやまれる此子をなぜおこつたかしらぬと。又思ひました、こんなにすぐあやまられる小供がありますやろかと。こづらにくい此頃の小供心のうちにさすがに一燈園の小供はかはつたものだとつく〳〵感心したのです。天香さん、その時どの様な事があらうとも此園ちやんをと勢こんでゐたのです。今斷られてもう一燈園へくる勇氣がありませぬ」

天香さんはニヤ〳〵と笑うてゐられました。

私は實は此日小供はどうするか、親は托鉢が出來ても小供は誰れが養ふかといふやうなことに深い疑問を持つて、それを天香さんに聞かうと思うていつたのですが。此偶然の談合で何だか狐につまゝれたやうな氣持のうちに解決がついたやうな氣がしたのです。小供の福田！ いたづらに育てればもらひ人もあるまいが、此のやさしいあやまつた一つの事から○○さんが自分の家の相續人にこのやうにまで眞劍にもらひたいといはれるに至つては。如何にして養はれる？といふことを憂へる心は自分が養はれるやうな資格を失つた爲めに起る心配であるやうに思はれかけた。それでもうその事を問題とする勇氣もなく、されぱと云うて解つたといふにはまだあまりに何だか手持ちぶさたであるやうな氣もして、茫然としてしまつたのである。

おひかり、福田、などがしつくり自分の實際を活かす力になるのはまだ遠いやうであるけれど、それを疑ふ事は出來ないやうな氣持がした。

おひかり、福田、なるほど我等は已れの小智小見で之を見失うてゐるのかも知れぬ。いや屹度そうでありそうだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

西國行　第二信

三月十四日　九州八幡にて　松下吉衛

K兄

今頃、こゝから兄におたよりをしやうとは、思ひもかけませんでした。やはり、日々身體が二つあつても足りないお忙がしさでせう。御苦勞さんです。

十日の奉仕日運動は如何でしたか？　兄達が居らるゝので安心はして居たものゝ、參加の叶はぬお詫びを兼ねて、とりあえず、「ココカライノラセテモライマス」と打電しておきました。それで、はなれては居るものゝ、私も當日は特に緊張した氣持で奉仕させて貰ひました。

天香師の此日のプログラムは、午前、接客、手紙の整理午後、お話。その御話が一二時間のなまやさしいものではないので、隨行の任に當つてをる私も、御蔭でよい修行をさせられました。即ち

午後零時半――三時　附屬病院に於て醫員看護婦の爲に
午後三時半――五時半　購買會に於て從業員の爲めに
午後七時半――十時　倶樂部に於て職員一般の爲めに

かうなれば、お話も「名士の氣保養」とは謂はれますまい。これが特定の日程といふわけでなく、此度の御旅行の日常なのですから、今更ではありませんが、師が献げ切つたお態度に、畏敬の念を起さずに居られません。あまり頑健でもおはさぬに、よくまあお續きと心つかふ者、ひとり私等ばかりでないと見え、病院長は特製の健胃劑を供養なさる、Hさんは、さすが女性のやさしを見せて、大根の飴エキスをしつらつて進ぜる、それにお宿をして下さつた山縣さん御一家のお心づくしは一々申上げるまでもないことです。

天香師のお話は、所謂說教法話演說講話の類とは、また、いゝ、ころつとちがつた趣があります。何事にも堪能な師のことゝて、初めは實際杞憂された話し方の技術も、今は押しも押されもしない獨自性を發揮なすつてをりますが、私が茲に言はんとする「ころつとちがつた趣」とは、お話の內容乃至態度についてゞあります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

師は學理敎理神學を說きません、たゞありしこと今あることを、そのまゝに端的に出されるのです。演壇に立つて聽衆を眺められ、敲かれて鳴る鐘のやうに、すら〱と自然に淀みなく述べられるだけです。何の作爲もなく技巧のあとさへ見出だされない程ですのに、一種企及し難い、この人ならではとの感じを起させます。超技巧の技巧とでも謂ひませうか、私の耳には餘り巧妙に過ぎるとさへ聞えることがあります。

これは何處から湧き出づるものか？

やはり生活が光つてゐるからではないでせうか？　轉機後數年のあの凄いまで徹底した師の生活こそは、よく何物の檢討にも堪へ得るでせう。中桐師の御紹介を得て私が初めて天香師にお會ひする機會を惠まれましたのは、彼れ此れ一と昔前のことでありますが、その時、うかゞひましたのが、やはり、師の轉機前後數年間の實生活の御告白でした。

そのまかきせつた御態度！　爭うて生きるより死を選ばれた御覺悟！　價値觀の轉倒よ。私は驚異のあまり其の夜まんぢりともしなかつたことを、今も鮮かに記憶の底から呼び起すことが出來ます。

「死線を越えて」にしても「懺悔の生活」にしても、表現の形式から云へば、藝術品でないとか、きざな書き樣であるとか、隨分非難のうち所が少くないと思ひますが、あゝ讀まれますのは、やはり、著者の生活そのものが背後に光つてゐるからであると信ぜざるを得ません。

いつかU市に路傍宣傳の兄に御供したことを思ひ出しますが、その折の兄のお話が、やはり、修辭ぬきのありのまゝな訴へでしたので、心うれしく聽かれました。

結局、日々の生活が問題ですね。言ふものには、暫らく、言はせて置きませう。えらがるものには、暫らく、えらがらせて置きませう。むさぼるものに、不勞遊食者に、搾取者に、掠奪者に、各そのしたいまゝに、暫らくまかせて置きませう。

生活がなくつて何になりませう？　言ふこと、書くこと位、勉强して出來ぬ筈はありますまい。あらはれることも機を作り機に乘ずれば、必ずしも至難ではないかも知れません。でも、生活を失くなしたら、淺薄な時人の眼や二十歲前後の感激し易く出來てゐる若者のことは暫らくごまかせようとも、少なくとも、歷史の批評には堪へますまい。

お互、見る人もなき田舍路に萠え出でた一莖の名無草で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

はありますが、名無草には名無草の生活があればよいではありませんか。この生活をはつきりさせて行くことに渾身の力を注ぎ合ひませう。名無草たるの謙讓を忘れないで、しかも周圍との妥協を排し、いききるまでいきることにいのり合ひませう、終始、『歴史』に面接してゐる覺悟で。

天香師のお話に、若し獨創性があるとすれば、その一つはこの生活を天香師自身に體驗されてゐると同時に、この生活を、お話と一所に、同人の托鉢者が目のあたり行持させて貰ふことでありませうが。

八幡製鐵所は從業員三万を擁する東洋第一の大工場。職工の合宿所が數ケ所、官舍が幾列、徒弟學校あり、附屬病院あり、購買組合ありして、それなりに獨立の自治體を形づくり得る程の堂々たる組織になつてゐます。一度運營の基調に變革が起れば、優に產業の一單位となるに足るものでせう。此所からの、十日間に亘る講演托鉢の御招ぎでしたので、一行は天香師とも前後十五六人の數にのぼりました。合宿所の空家を一行のたまりに惠まれましたので、こゝを暫設の一燈園とし、當番を選任して、日々、三々五々お求めに應じて托鉢するなり、街頭に行乞するなり、いたしたのであります。

かうした行き方の托鉢なり行乞なりは、勢ひ技巧的になりわざとらしさが加はり易いので、種々手痛い批評も下されますが、同人の行持が可なり徹底的でありましたからか總じて反響は過分に芳ばしく、今日、中川次長はじめ各部長方々に、(長官の白仁さんは御上京中)暇乞の御挨拶かた〲天香師と共にあはせて戴いた折なども、是非後に托鉢者を幾人か殘してほしいとの所望がおありでした。多分五六人は殘られることでせう。

合宿所の掃除、食堂の手傳、病院學校倉庫の掃除整理に見知らぬ人達の無作の奉仕ぶりを、如何に奇異なまなざしを向けて、職工さん看護婦さん徒弟さん達は過つたでせう。さうした奉仕の後に、天香師のお話といふ順序を取らせて貰つたのです。いつも聽衆は雜多でありまた大勢でありましたが、お話の內容が、かうして、事實の說明であり生活のありのまゝな紹介に止まつて些の空疎な談議を交へませんからいき〲してをり万人の胸にぴたりとくるのだらうと思ひます。三月九日、八幡入りの當夜から、職工合宿所のお話を手始として、今日まで丸五日間に十回以上もお話しでしたが、毎回とも相當な收獲があつたことゝ信ぜられます。

お話のあいまには、又、お話や同人の托鉢やに感じて、生活上の實際問題を御相談にお出での方が少なくなく、近邊各地、遠くは朝鮮からの求道者さへお見えになりました。それにのつぴきならぬ手紙の應答やら、揮毫の依賴やらもありますので、睡眠時間といつては、三四時間よりない夜が多う御座いました。師の御體が案ぜられるは勿論、起居を共になすつてゐるWさんHさんの御健康も、前生涯が前生涯なので心配させられました。

詳しくは歸つてからお耳に入れませうが、私とて今更、名門と財寶とに特殊の價値を感ずるわけではありませんけれど、「駱駝の針のあなをくゞるより難し」とまで、道心のおきにくいことに、古からきめられて來てゐる「ありたる」境遇に處しながら、不勞遊食の寄生生活に罪惡を自覺して挺身、神と惱める同胞とに奉仕せんとの大願をおこす仁ありとすれば、賞め讃へずに居られませうか、出來るだけの守りせずに置かれませうか。我が國に於ける「民衆の中へ」のインテリゲンチャの波が、かうした仁達の決烈の志によつて決定的に運命づけられることを想ふとき、その自重自愛を、ひたいのりに、いのらざるを得ません。今こそ、内外の情勢より考へて、この仁一人出づれば九族はおろか百族千族の生天を結果すること必定であらねばなりません。倍加働動で行くのです。パーソナリに——

もう立つ時間です。ひつぽきりですが、こゝでペンを擱きます。

これから、門司までは電車、下關發午後零時いくらの京都行を取る筈です。今夜は、Y部長令夫人の御鄕里T町に寄せて貰ふことになるでせう。令夫人も御一所です。

烏の子

天香

南無不二無相眞光明
あゝ、何たる光景ぞ
うらゝかな
さびたる部屋に
もてる筆をおいて
彼れの手おのづから合へり
桐の火鉢にかけたる
鐵瓶の湯はたぎる
その音、美妙
あなかしこ

○

丹田はねれる
澄む眼、か丶やけるかほ
足のかゞとよりする呼吸
わが魂、いつしか遠く消ゆ
大日如來あらはる、烏の子鳴く
烏の子　お丶烏の子　烏の子。

○

このま丶でありたきねがひ
誰に一人しられずとも
あ丶　おひかり
釋迦おはす　キリスト親し
このま丶でありたし

○

されど聲あり、よぶ聲あり
きたれこ丶まで、寒山の處
よぶものはいふ、下までおりよと
おりるをおそれるわれならねども
おりれば御身らひかりを見じ
といへど、いつかはおりてゆく

○

甲許し、乙判ず、うたてし
されど迷緣か？
水中の月はくだくべし
天上の月遂に壞せず

○

われ一行をも修せず
ま丶一語をも語らず
このこと世の人大方はしらず
みひかりのみ　しろしめす

○

このたびの生
何ほどの事をかさせたまふ？
しらず　たゞその時々をたのしまん
歩々光明、
如是本來究竟

○

掌はおのづから合ふ
息（いき）は三千世界を呑み吐きす
われやいづく
雀ちう〳〵
湯氣りん〳〵

（於東京山口邸）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

獨白

八田勝三

親鸞は、父母の孝養のためとて、一遍にても念佛まをしたること未だ候はず。その故は、一切の有情は皆もて世々生々の父母、兄弟なり。何れも〳〵この順次生に佛に成りて助け候ふべきなり。——歎異鈔第五章——

イエス人々に語りをる時、その母の兄弟かれに言はんとて外に立ちければ、或人イエスに曰ひけるは、爾の母と兄弟、なんぢに言はんとして外に立てり。イエス告げし者に答へて曰ひけるは、我が母は誰ぞ、我が兄弟は誰ぞや、手を伸べその弟子を指さして曰ひけるは、是わが母、わが兄弟なり、蓋すべて我が天に在す父の旨を行ふ者は是わが兄弟わが姉妹わ母なればなり。—馬太傳十二章四十六節五十節—

若し法然上人が母上の涙ひかれて、誕生寺を離れず、叡山に修業なさらなかつたら、他力往生の教へも、女人成佛の救ひも、此の世に生れなかつたかも知れない。母上思ひの日蓮聖人も、法の道を傳ふる爲に寧日無く、二十年間、慈母の膝下に御挨拶される時が無かつた。然らば古聖賢は皆不孝者と呼ばる可きであらうか!

○

夫れわが來るは、人を其父に背かせ、女を其母に背かせ娘を其妹に背かせんが爲なり。人の敵は其家の者なるべし。我れよりも父母を愛む者は、我に協はざる者なり。我よりも子女を愛む者は我に協はざる者なり。その十字架を任りて、我に從はざる者は我に協はざる者なり。—馬太傳第十章三十五節、三十八節—

斯く教へた基督は、家庭の反逆者だらうか!

○

眞理の道を歩み、一切に仕へる者は、當然の歸結として倉田氏の『布施太子の入山』に書かれし如く、母に隨ける者でなく、天に隨ける者なる態度をとらざるを得ない。母后に對して、我が行く道を妨ぐる者は、母と雖も惡魔である、外道であると痛罵した太子の言は、人類に與へられた

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

唯一の道に進む心なればこそ、肯定し得る血を吐くやうな悲痛の叫びである。此の鐵壁のやうな道心にして始めて母后の心眼を開き得たのである。

○

准禁治産の息子様が、眞劍に十字街頭にたてば、兩親は即刻歸郷を促がし、お乳母日傘で育つた娘樣が、眞に眼覺めて癩病院に奉仕せんと願ひ出づれば、父母は飛んでも無い事と意見する。總ての人々にとつて眞理は常に一なるを諾ひつゝ、肉親が纖細い乍らも、先哲の足跡を歩まんとすれば家族はあらゆる方法を以て極力その道心を阻まうとするのは、何といふ矛盾であらう。此の際眞實肉親を愛する者ならば、斷然大我につき、小我に迷ふ事なく、道心を徹すべきである。

○

但し十字架を負へる意りで、個人主義に陷つて居れば、極重惡人と罵られても文句は云へない。若し方便として懺悔の生活の眞似をやつたり、奉仕の遊戯をしたり又一寸した人の好意を、勝手に思ひ違ひして、自ら法悅を創り出すなどは、よく〱心すべき事である。棄恩人無爲は反省を重ねたる後斷行すべく、半解で行へば、環境を傷ける丈けに過ぎない。

○

幼ない人に乞はるゝ儘、一つ床にやすませて貰つた處、幾度か夜半に眼覺めて可愛い寢姿を、暗黑の裡に勞つて居た。新生涯に入つてからも、同人と同じ蒲團に重なり合うて寢た夜もあるが、眼を覺ますやうな事は一度もなかつた。してみると當夜は不知不識の間に、母親らしい心遣ひに支配されて居たらしいが、この體驗から今更らしく、母の慈愛の尊さをしみ〲と有難く思つた。それと同時に總ての人を慈母の樣な心持で抱きたい思が一層強くなつた。

○

不圖眼覺めると、外の面は春雨が降つて居るらしい。

『おや又雨か！』

と心で呟やく刹那、何處からか怒鳴りつけられたやうに思つて、はつとした。

『醜い主觀の化物よ！天氣が好い惡いとは何處から割り出して囈言だ。自然には人間界に行はれるやうな、小ぽけな作爲は無い。お前達は、勝手に築き上げた功利心の幻影に、自らを毒して、怒つたり悲しんだり、徒らに感情の奴隷になつて居るのぢやないか！　もつと活眼を開いて、大

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

自然の愛を深く玩味するが好い。』
私は床の上に起き上つて、心の淨まるまで懇禱した。

○

祈りが聞かれたか、何時増えるとも無く、東京にも同人が十人餘りになつたのを有難く思ふ。併し私の心は矢張り寂しい。其日の糧を得るに日も足らざる爲、私達の存在を知る機會をさへ與へられざる階級に對しては、召さるゝ儘に奉仕せる園の態度は、冷淡な祈り方でなからうか！　而かも最も虐げられつゝある人々は、宣光社の具體化を待たずしては、殆んど微温的にしか觸れ得ない楯の半面に住して居るのを思へば、我が祈りの中心は茲に移らざるを得なくなつて居る。

○

過日大學病院で下足番の托鉢中、踏板に躓いて生爪を剝したが、左程痛みもせず、四日目から用事も溜つたにつけ、靜養する暇も無く働かせて貰つて居るが、患部は不思議な程早々癒えつゝある。入園前の私は、靴づれが出來ても一ケ月位苦しんだやうな、傷痛みをする性分だつたのが、更生後は、奇蹟のやうに治癒力が盛んになつて居ると感ずる。『自然は醫なり醫は自然なり。』と醫聖の醫學が研究されるやうになつた最初より、說かれて居る至言が、種々の體驗を通して首肯せられ、信仰が科學を超越する事あるを如實に味はせられる。

○

腹を立てるは二重の負擔である。不幸を悲しむも二重の重荷である。頭など何かで打つては『こん畜生ッ』と怒鳴つて、時には物に當り他人に不平したりした身も、此頃は『おや今日も何か我があつたのだ。何卒御赦し下さいまし』と思はず祈り得るやうになつたのを感謝する。『我が信仰の生れしも七人の繼母に仕へさせられた家庭の賜物と思へば父の性行を怨む心も出ず、母達の幸福を祈らざるを得ません』としみ〴〵話されたM氏の心情もよく會得出來るやうに、思はれるのも有難いと思ふ。要するに心の糧は、與へられた總ての事柄は許容して、その內から眞理への通路を見出す處に在るのぢやなからうか？

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

山陰線上
西田天香師と語る

藏田清子投

大正十一年三月二十七日午後五時頃、汽車は島根縣安濃郡小田村にて講演を了はられた西田天香先生を乗せて山陰の田舎を進行中、その時聽講せる地方の富豪、名家の令孃五人を同伴した私は天香先生と席を同じうする光榮をになつた。眩ゆいばかりに美裝した諸孃と、木綿の棒縞紺色仕事着を羽織つた小使のやうな風采の天香先生との對照は想像に委せませう。先生は溢るゝ微笑を見せて

「あなた方はどちらからお出になりました。」

風采に對しては奇異の感じを抱きつゝも柔かい眸と優しい無技巧の語調に畏敬といふよりは親しみを感じさせられながら

「これから汽車で一時間半ほどまゐりますと溫泉津町といふ所がございます。そこの者でございます。」

「それは、まあ遠い所からようこそ」

「實は先生の『懺悔の生活』を拜見いたしましてこれ迄の不滿の生活から解放された樣で同じ仕事も嬉しい中に働くことが出來る樣になりました。それから是非一度尊い御人格に觸れ御講演を拜聽したいと存じて居りましたところ今回九州の方へお越しの途次この片田舍の太田町にも御立寄り下さるとの事で、友人誘ひ合ひ今朝二番の汽車で太田町迄參りましたのに、はやお話は終つてこれから小田村の方にお出になるといふことで失望の中にもまた勇氣を出して御後を追つてまゐりました。御目にかゝりましてお講演を伺ひますとお光と仰せになります心地がいくらかハツキリして來たやうで御座います。ありがたう存じます。」

心から敬服の首を垂れた時先生も有難いと云つた樣に靜かに兩手をくみ合せて頭を低くされました。そして眼尻を下げて

「さうでしたか。それはようこそ。此頃はお若くてもなか／＼確乎した考へを持つてお出になる方が多いやうです。此頃になつて世間の人達が一燈園生活に興味を感じて硏究する樣になり、大層、天香は流行者になつた樣ですが、何も別にえらくなつた理でもない。十九年前の天香も今の天香も同じ人間です。落ちついた氣持で托鉢してゐる方々から話に來てくれと賴まれて引張り廻される樣になりました。扨て演壇に立つて何か話さうと云ふ氣になるとどうも何となく改たつた樣で、思ふ樣に氣持が乘りません。かうして膝を交ぢへて自然のうちに話すとはなしに話される方が愉快です。これから太田町迄、お話しませう。」

「先生。どうぞ聞かせて下さいませ。」

「どんなことを話してよいものか、自分の方から考へて話すのも離かしいから、どの樣な問題でもよろしい、あなた方の方から質問して下さい。そうすると話し易いです。」

五人は顏を見合せて微笑みながら一寸口を出し兼ねてゐると

「時にあなた方のお名前が聞きたいですが、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

こちらの端の方から聞かせて貰ひませう。」と粗末な小さな手帳と萬年筆とを渡された。汽車が動いて書けない。恥かしさも交ぢつて躊躇してゐると

「ぢやわたしが書きませう。こちらの方は何とおつしやいますか。」

「あの方は管原八重子さんと申しまして道實の遠い後裔で温泉津町の西樂寺といふ大きなお寺のお孃樣でございます。」

「あゝそうですか。それはまあ……。その次の方は」

「やはり同じ町の温泉を持つておいでになる伊藤たま子樣とおつしやる方でございます

そのこちらのお二人が、近くの大濱村の銀行の泉谷さんの令孃で、お姉さんがかね子妹さんがさだ子と仰言います。」

叮嚀に五人の住所姓名を記されると

「何か聞きたい事はありませんか。」

笑つて默つてゐると

「ぢやわたしが一ツ問題を出しませう。此處に大學迄卒業された方ですが、一燈園生活を理解して悦んで托鉢をしてゐられる立派な方があるとします。お年は丁度二十七八歳ですが、御存じの通り托鉢をするには髮を分けたりフロックを着たりしてゐられません。それで私共と同じ樣にざんぎり頭で粗服を纏ひ藁の草履で毎日働いてゐられる方です、ところがその方も年頃ですから妻帶してもいゝといふのです。それで假りにそういふ方にこの中の誰れでもいゝからお嫁さんに來て下さいと云つたらどう返事して下さるでせう。」

五人の胸はどきつとした。最前迄は大層先生の思想、生活に心服した樣に、ひどく頭を垂れ、心醉の表情をして、更に太田町から小田村迄その後を追馳けて迄講演を聽く程に人格を慕つた樣な言葉をもらして置き、また自分の生活が先生の著書に敎へられて、もとより不完全ながら解放され、毎日樂しみ、働く中にお光を感得した樣な心地を語つたその自分等が此處に現在そういふ一個の立派な異性がゐる。その嫁に來てくれと云はれたのに、なぜ嫁く氣になれぬのか。精神には感服しながらも塵埃に塗れた乞食の樣な身裝で庭掃き便所掃除で日暮しをしてゐる青年を夫として身も心も委せるといふ事になると――。時は立つが五人の口からは返事が出ない。「嫁です」と云つては一燈園生活に心醉した樣な事を云つた自分の心を裏切る。それは裏切つたにしても、目前に無帽黒衣の貧しい風采をしてゐられる天香先生に唾を吐きかける樣な氣持がして何だか勿體ない。壓迫を感じてやはり默つてゐた。先生は微笑しながら

「やはりつかんだ樣でつかんでゐない事があります。」

と仰言つた。解つた樣でいざやつて見ろと云はれると出來ない。それが自分等の不徹底な心持。その心持を見拔かれた言葉である。五人は只恥づかしそうにうつむいてゐる然しどうせ言はないでも見透してゐらつしやる自分等の心だ。正直に言つた方が心の塊がとれていゝと思つたから

「お恥づかしいながら、まだ無條件に『ハイ』といふ心になりかねます。」

と思ひきつて言つた後はすが〳〵した。

先生は笑ひながら

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

「おうけ出來ませぬか。」

「ハイ、正直のところ。」

「それが當り前かも知れません。」

「先生からいふ問題を出されて私どもの心の不徹底が判然としてまゐりました。それに就きして、行き詰まつた現在の矛盾をおきゝ下さいませ」

「ハイ、どうぞ。」

「先生私達は「眞面目」いふことを尊んでゐます、『正直』が好きです。どうか正直に世渡をしやうと思ひます。その正直な眞面目な世渡はどうする事だらうかと考へ極めて行くうち、どこやら一燈園の生活に近づいて來るのを感じます。下座に居るとか、無一物の氣樂さとか、お光の惠みとかいふ意味が稍々判然としてまゐりました。頭の飾や顔の白粉足袋の汚れ、といふ様な事に心遣ひなしに、自由自在に心のまゝに奉仕の働きをする。それは何と氣樂な生活(くらし)であらう。落ちついた心に還るだらうと思はれて何だかそうやつて見たくなりました。そして今朝は板間拭くのも庭を掃くのも鷄を飼ふのも嬉しう御座いました。いつもは朝の仕事はそれだけで、それでも面倒だと思つた事もありましたが今朝だけはながし元のどぶさらへ迄喜んで出來ました。ところが不圖私は嫁入前の娘さんだつたらといふ疑問が起りました。」

「なるほど」

「それから、自分の汚物(どぶ)さらへして汚れた手を見つめました。汚物の中には小石や砂も混ぢつてゐますから、何だか手がざら〳〵になりました。一日二日はこれでよいけれどもこれが三百六十五日も否一生も續いたらどんなに見苦しい手になるか知ら、いえ手ばかりではない身體全體が、おさんどんの樣になるだらう。おさんどんは誰れが見ても上品でありません。假令羽二重の着物着たつて令孃には見えないだらうと存じます。「今の世は十中十迄所謂上品の人、良家の方、人格の高いと言はれる方々は、おさんどんの樣な醜い女を嫁さんに貰ひません。これぢや折角眞理を追つて心が落ちついて來たと云つても美といふ事、趣味といふ事が拔きになつてしまひます。老ひぼれたり、托鉢の人間はそれで諦めもしませうが、これからといふ娘にとつては悲しい矛盾になりはしまいかと思ひました。」

「なるほど」

「また娘さんとしても托鉢生活を讃美しながらもあまり艶消しの粗末な男と一所になるのは嫌でせう。」

「それで先生、人間は眞、善、美に依つて圓滿な人格を作り得ると申されますが、托鉢生活では眞善に美が伴はなくなりはすまいか。かうした矛盾を起さずに歩まれるでせうか。まだ私どもにはよく解りません。」

すると先生は自分の小指を出して

「この指一本がどいなに美くしくても、體全體の美を見る人にとつて大した問題にはなりますまい。タイ美を知らねばなりません。」

タイ美といふ美はどんな美か一寸發音だけでは分らなかつた。

「先生タイ美とは體美の事でございますか。肉體美とか自然美とかいふ意味の美でござ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

いますか。」
「タイ美とは大美の事です、小美の反對です。大美に眼醒めた人にとつては白粉縮緬の着物で飾り立てた美しさは心を惹かなくなるのです。」
「それでは假装美でなくてキビ〳〵とした、肉や血の鮮かな美が大美なのですか。」
「それも美でせうが、大美といふのは全體美のことです。調和された大きな美です。指一本が身體全體を見る人に、さして問題にならぬ様に、宇宙の調和された美を識る人にとつて一人の美は大きな問題ではないのです。大美から割り出された小美はよろしい。けれど小美のみでは行き詰りが出來ます。」
「大美といふのを全體美といたしますと小美といふのは一人の體とか一つの物質とか云ふ様に限られた意味の美なのですか。」
「そうです。例へば田舎の娘さんが流行を眞似て京の都で現代流行といふ鹿の子絞りの帶を買つたとします。田舎でこそ珍らしいが又出て來て都の街を歩く時にはもうその美は役に立たぬ。
羽二重更紗が流行してゐるとしたら、鹿の子絞りを美くしいと見る人はなくなるでせう。でも、大美には滅びがありません。心を下座に置くと同時に美も下座において考へてごらんなさい。我ひとりの美に囚はれずに、全體として調和した美の中に自分自身をも加へて全體の美について考へてごらんなさい。
その美に醒めた娘さん達もあります。一燈園生活をしてゐる娘さんは喜んで今の問題には『ハイ』と承諾されますから面白いもんですね。」からもの柔かにおつしやつた。美も戀も抱擁してゐられる人間味の豊かなお心と微動だもしない安住の御生活とは私共の氣持をしんみりさせた。太田驛でお別れするのはほんとにつらかつた。

リリのナイフ

松下生

「よみがへりのことほぎに
この聖き書
とらせたまへ！」
としをさなるがいへば

「わがたましひなる
リリのナイフ――
さきとせひとりのよきともより
おくられしもの――
新生のかたみのしるし！
きみにしんぜん。」
つゝしまやかに

いらへするひと
ほゝのいろ、はえてみえぬ。

「往き易くとも
人なきいとせまきみち！
ちゝはゝ
なげき、はゞまば——いかに？」
「まごゝろもてとくに
よも、
きゝたまはぬことあるまじ。」
「きゝたまはずば、もし——」
「出家づべきのみか⁉」
さはれ、
わがさがよわし。
いかにすべき？」
「いまは、われ
いのるよりすべをしらず。
たましひいたみなば
このいほり、
すみよしとにあらねど
いつにても
きたりいこへかし。」

「さらば、はらから——」
「さらば、さきく！はらから——」
はるたけなはのあめのひとひ
こゝろひかれつゝもたもとわかちぬ。

ひ、また、ひとひ
ときはながれゆけり。
いつしか
わびしきいほりにも
あをばのかぜかほる——なつは
おとなひきたれり。
はらからいにしひより
あさないふなのどくきやうに
普門品の一くわんは！
ことさらにくはへられぬ。
さみしくもさびたるどくじゅ！

はらからの
かへりをねぐや?!
にんげんなればぞ、
ひとりゐは
しゆぎやうのみにも
せつなくあるか!?
——あはれ、リリのナイフ！
てにせられぬひとてはなし。

されど、
そがおくりぬしのせうそこは
いまに
きかれざるなり。

（むさしの、玄光社にて）

ひよつ子よ

ひよつ子よ、
母鶏(おやどり)はなれた　ひよつ子よ！
わしが居ないで寂しいか？
何たべる？
麥ぬかばかりちや　まづからう。
「川ぜり交ぜよ　卵殼やれよ
はきまで交ぜよ　水やれよ。」
留守居に　よく〳〵
頼みはしたが、
わし程お前が可愛くない留守居、
心配だ、心配だ。

フンがたまつちや臭からう。
雨がもつては風邪ひかう。

昨夜はお前の夢を見た、
みんな死んぢやつた夢を見た。
はなれて居ると氣が氣でない。

（山陽線車中にて）

火中生蓮華　是可謂希有
在欲而行禪　希有亦如是

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

在園中の思ひ出

金森乾三郎

天香様が九州山陰兩地方へ講演旅行に御出かけになる前々日、衣の棚の杉本様のお宅にお暇乞ひに伺ひました際、『何なり在園中の感想を書いていたゞければ結構ですがな』と云はれました時には、實際冷汗をかいてしまひました。がその瞬間、『托鉢だと思つて書け』といふ様な氣持が心の隅の方からひよつと出ましたもので すから、『有難う存じます』と申してお別れ致したわけで御座いましたが、その後頭のまとまらない上に性來極めて筆の立たない自分を考へて見て二度目の冷汗をかいた次第であります。で、全く柄でもない事で、すつかり恐縮し切つて居るので御座いますから、その邊をどうかお汲み取り下さいませ。

どんな醜惡な人間でも神を思はないものはないでせう。大膽に神の存在を誰が否定出來ませう。神の存在は認識してゐても、人間は弱い、何時も惡魔に負けます。然し、まるつきり惡魔にもなりきれません。私がさうでありました。そこに人間の悩みがあると思ひます。神を冒瀆するやうな生活の中にゐても神を思ふと苦しめられます。私が一燈園に入れていたゞく前は恰度この苦悩に苛まされました。靜かに自分を反省して見ると、自分の存在すら神への冒瀆だとさへ思はれる様になりました。私は不安になりました。もう妙に怖えてぢつとして居ることも出來なくなり睡ることすら困難になつて頭も體もすつかり、ぶち壞してしまつたのであります。その時『悔い改め』といふことが何だか非常に力強く私に響きました。悔ひ改めて冒瀆の罪を洗つて貰ひたい、そして安心を得たい、私は切に願ひました。かういふ様な事から私は一燈園に入らせていたゞくことになつたのであります。

入園第一の印象は靜寂といふことでありました。今迄の私の落着きのない、焦躁の暴風のやうな生活と較べて何とも云へぬ『靜そのものが』園の生活に見られました。もつとも之は最初の印象でありまして、私が直ぐこの靜寂の中に溶け込んで了つたのではありませんでした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

「同人が最初園に來なさつた時は、妙に目がつり上つて、凝ひ深い光が瞳に見えるが、その內に段々、目尻が下つて優しい顏になりますが、面白いものですな」と天香樣がよく仰言つたことでしたが、そんな樣子が私にも有つたことを否めません。

然し每日托鉢さして頂いてゐる內に體の調子が段々自分にも目に見えるやうに整つて來る．すつかり憂欝になりきつた心が、自然に和らいで、のび〳〵して來て、不自然な笑――數箇月の間私には本當の笑がどうしても出ませんでした――しか出來なかつた自分の心から純眞な悅びと共に笑が浮んで來る樣になりました。

私は幼年の時から度々色々な病氣をして、病弱な人間だと相場が定つてゐましたので、よく親戚の者達から『お前の體はみんなで心配してるんだから體だけは氣をつけるんだよ』といやになる程聞かされるので、自分でも俺は弱いといふ意識を常に持つてゐたものでしたが、慣れないお仕事をさせて頂いてゐても、別段體に故障もなく、却つて生々として來る所から、自分は決して弱くない、弱くしたのは自分の心だ神の思召しに添うた生活の何處に惡魔の入り込む餘地があらう』といふ自信が先づ生れました。

生々として托鉢をさして頂いてゐる內には、神といふ意識が强まつて來ます。自分が小さく見えて來ます。人間の智慧とか力とかいふものが、神のみ前には實に便りない「至微き者」となります。自分を絕對だと思つてゐたのが恥しくなつて來ます。自分の罪を意識することが段々鋭くなつて參りますと、身を投げ出して、懺悔し、祈り切りたい氣持ちになります。園の生活をさせていたゞいてゐる中に、から云ふ感じが强められたことを、感謝せずにはをられません。

けれども、初めの中はよく次の樣な考へが頭の一角から赤い舌を出して、私を嘲笑したものです。「お前は、何をしてゐるんだと思つたら、そんなことをしてゐるのか、そんな事をしてゐて、それでいゝのか。』私はハツとして、「惡魔だ！」。一體そんな考を以て托鉢してどうする。光を消す惡魔だ！」と强く打消しました。全く托鉢は眞劍であらねばなりません。『托鉢は祈りだ』といふ天香樣の言葉は、考へねばならぬことゝ思ひます。托鉢が眞劍でないと直ぐ惡魔が入つてダレます。

托鉢が眞劍だつた日は、感謝の念に燃えます。托鉢を終つて園に歸る途中、寒空に閃く無數の星を見ても淚が流れ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

る様な有難い感じがします。園の生活に觸れない中はこんなことはないことでしたが、園に歸る途中岡崎公園の裏にある聖マリア敎會の前を通りましてあの屋根に立てゝある十字架を仰ぐと、どうしても十字を切らなければ濟まない氣持ちに打たれました。一燈園といふ建物をあてにして歸ることはいけない事でせうけれども、私はあの托鉢の歸り路の喜びと感謝をどうしても、忘れられません。

不純な氣持ちで托鉢さしていたゞいた時――そんな時は托鉢でも何でもありませんが――心は痛みます堪へられない呵責に會つて、どうしても救はれない、赦されない奴だと自分が情なくなります。私が在園中一番大切だと思つたのは托鉢中の氣持ちでした。祈りを缺いた形ばかりの托鉢だつた時に『御苦勞でした』等と云はれた際、穴があつたら入りたい樣です。托鉢に祈りを缺いたら、その瞬間に、もうたゞの勞働者です。勞働の切賣をする外道です。私は熟々思ひました、托鉢は至難だ、と。

しかし、眞劍な托鉢の後には必ず法悅があります。光の惠みがわかります。私などに、光つたと思はれる光は、ほんの片鱗で燐寸の火程かも知れませんが――或は本當の光でないかも知れません――ありがたいといふ感謝の心が湧きます。

こんなことがありました。天香樣の大阪府兵庫縣への講演旅行の御伴をさせていたゞいた際、天香樣より一日お先きに、鈴木樣と龜井樣とで大阪府のI町に寄せていたゞいて、其處の師範學校の寄宿舍を托鉢さして貰つたことがありました。丁度二月の初めで可成り冷えます時分でした。三人して便所のお掃除をさせていたゞいてをりますと、生徒さん達が十人程見えまして、遠くの方から、變な顏をして見ておいでゞしたが、その中に、笑つて行つてしまはれました。こちらは、そんな事にかまはず、いゝ氣持ちになつて、鈴木樣や龜井樣に『また無相遊歩が始りましたね』等と笑はれました程有頂天になりきつて、三人で一番醜い所を硝子の斷版でゴチ〱やつてゐました。『法悅のひそむ所』等といふ言葉が鈴木樣の口から出る程、三人とも喜びにあふれてゐました。遊戲三昧とはあんな時の事だらうと後では思ひましたことでしたが。

その時チヨツト外の方を見ますと、何時の間にか、また生徒さん達が先の場所から眺めてゐらつしやいましたが、その顏は、さつきの表情とはすつかり變つて、緊張してゐました。やがて、七八人の方が私達の所へ來られて、『僕達

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

にも手傳はして下さい』と仰言つて、どん〳〵掃除をして下さいました。勿體ない事だと心で拜んで、その後は、皆さんの御手傳ひがあつた爲、一氣呵成にお掃除をさせていたゞきました。そして終つた時は、もう電燈がついて、外は、暗くなつてゐました。私は本當に有難い氣持ちで一杯でした。それから、生徒さん達にすゝめられて、ある寮室でお風呂やら夕食やらの御供養をいたゞいて、二十人許りの方々と火鉢を圍みました。すると先きに手傳つて下すつた方の一人が、あなた方は、一體、どこの方で、どうしてあんな事をなすつておいでだか是非話して吳れ』と仰言るのです。私達は驚きました。それではこの方々は一燈園を知つておいでゞないのか。それだのに、私達の托鉢を見て、手傳つて下さつた。私は有難いと思ひました。涙が出ました。私は、光の鮮かさに今更ら頭が下つて、心で合掌致しました。そこにゐなすつた方では、一燈園のある事を知つてゐらしつた方が一人きりで、後は園の生活をどなたも御存じなかつたのです。皆樣は園について是非話して吳れとの事でしたが、鈴木樣は、明日天香樣がこの町のT寺で講演をなさる故、園のお話は天香樣から聞いて下すつて、私達には、話だけは許して下さいと願はれて、三人は殘惜しい氣持ちで、生徒さん達にお別れして、泊めていたゞくT寺へ參りました。その途中、三人は子供の樣になつて光を讃へました。そして私は私の托鉢に常に緊張を加へて下すつた先輩の御二人の同人に感謝しました。今から思ひましても、あの時の喜びは大きかつたと微笑まれます。

托鉢はあくまで、眞劍で、徹底しなければならぬと思ひます。

取りとめもない事を思ひついたまゝに書かしていたゞきました。私の樣なものでも、祈りと感謝とを味へる樣になりまして、靜かに考へることの出來ます樣に落ちつく力を與へて下すつた一燈園の生活に頭が下ります。『神を思はないで、一日だつて生きられない』と云つたトルストイの氣持がわかつた樣な氣が致します。これは天香樣への托鉢のつもりで書かして頂きました。合掌。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

返照録

●三村佐市郎兄（熊本縣水俣町陣內社宅）先生御地の方は大變に寒氣が酷しい相で御座いますが御變りも御座いませんか。

お光の爲とは申せあまりにお忙しい御體で御座いますから乍陰御案じ申して居ります。そしてどうぞ御達者で在らせられますやうに祈つて居ります。

私の家庭もだん／＼とお光に惠まれて參りますのみならず此の何事もなし得ない又知識のない愚な私を通してお光は私共の同士をだん／＼と增して下さいます。一月の三十日から二人の友達と奉仕デーをきめまして會社の仕事を終へてから約一時間工場內で托鉢して居ます。一週間に二度火曜日と金曜日とであります。

三人ではじめましたのですが、だん／＼と同士が增して來ます、私達のこの細い力で工場をお光化する理想を實現することが出來ますやうに祈りつゝ働いて居ます。

昨夜は平上惣市さんが私を尋ねて下さいました。先生から御知らせがあつたので尋ねて下さいました。大變にまじめなそうして感激性の强そうな方です、此の方も私達の托鉢に加はつて下さることになりました。

それから再三先生に御誨を乞うた前田卯一郎様（同工場在勤）は大變かわつた思想を持つて居られましてその上私等よりずうつと頭腦が上ですから私等の力でどうすることも出來ませんので只お光に祈つて居りましたが彌々近日會社を辭して漂浪の旅に出ると申して居りますそして先生の處へもお尋するそうでありますからどうぞ氏の思想をお光に照らして見て行く可き道を知らせてあげて下さい。

それから先生は九州に御出向なさいますのは何月ごろで御座いますか、一同お待ち申して居ります。（天香さん宛）

●山縣久子姉（八幡市）　一筆御禮申上候御多忙の御中より八幡及德山へ御來光頂き殊に不自由なる茅屋へ御案內申上候て何とも御詫申上様も御座なく候御蔭様にて惡緣强き私も此度善に立ちかへらして頂けねば生を幾度重ねてもすくはれん事覺束なき樣に感じ候ほど何かしら尊きあるものを御殘し頂きし心地いたし歡喜此事に存じ上げ候御禮は一々と申上げ盡されず候へ共德山にて秀子様早速病室の手もつけられぬ處を御掃除下されしのみならず千代子のために安心して願はれる人なきため今日まで轉地を決行なしかね居候事一寸御話申上候處直に秀子様にはあの御若き御身をもて御恐怖の色もなく何卒私より先生に御願ひ申上げて此御一行のあとに千代子のつきそひとして轉地先きへ御自分をつかはされたき御むねを申出し下され候て私より幾度も勿體なしとて御辭退申上げしにもかゝわらず此事を先生に御願ひ申上候樣に仰せ下され實に涙にむせび入申候こゝにて私事も眞に懺悔奉仕の骨髓に接しさして頂きし事を直覺申上候思はず禮拜さして頂き申候實に天使と云ひ菩薩と申方は天國のみに居ますものならずと存じ上候あまりに勿體なくて先生には私より御願ひ申上て御別れ申上候へ共私のはからひにて切角の御好意一同につたへぬも道ならぬ心地いたし廣島より歸國の上兩親はじめ弟妹一同に申つたへさして頂き申候處一同合掌落涙して感謝申上候愚弟も其中是非とも天香先生に御願ひ申上げて一ヶ月店を明けられねばたとへ一週間にても一燈園生活に入れて頂きたしと願望生じ候よし申居候一同よろしく御禮申上候樣申出候きたなき／＼前生活をふりすてゝ是非御足のあとをしたはせて頂きたく小女も心に祈願を生じこの燈火のきゑぬ樣神様に祈らせて頂き居候へ共弱きものは何時またどん底に落ちんともはかりかね候まゝ何卒々々幾久しく御手引き下される樣願ひ奉り候千代子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

も御蔭様にて大安心を得させて頂きし様に相見うけ申候却つて私より眞劍さに於て强き丈早々御光まかせに落つく様にも感じられ申候病氣も今は問題の外と相成申候幸福ものに御座候厚く御禮申上候御多忙の處長々認め御許願上候御一行様へ吳々もよろしく御願ひ申上候達坊へ御惠み被下候御汽車永久に紀念といたし成人のあかつき思出の種にいたさせ度く候主人もよろしく申上候様申居候まづこの主人によつて修養のまとを得さして頂きたく祈候弱きものに何卒御刺添えのほど願上候かしこ極惡の久子合掌（天香先生宛）

●宮本惠之助兄（東京牛込下戸塚町十九）天香さん、一月は二度手紙を差上げましたが、お讀み下さつたこと丶蔭で喜んで居ります。常は牛馬の如く働かねばならぬ身も、けふは山縣公の國葬で一日おひまを戴きました。

けふはあなたと對坐したつもりで、三度目のこの手紙を書きますから、おひまがあつたらどうぞお讀み下さい。そして御意見があつたら御返事も下さい。天香さん、老子には「我有三寶、寶而持之、一曰慈、二曰儉、三曰、不敢爲天下先」と、かやうに申してありますが、私はあなたの人格を思浮べるにつけて、いつもこの語を思出さずには居られません。あなたの慈愛あなたの儉素、あなたの謙讓眞に徹底的で如何なる程度の頑迷固陋の人たりとも熔けて流れずには居られまいと思ひます。

天香さん、あなたは、活きた三寶の標本であります。「聖人不積、既以爲人、已愈有、既以與人、已愈多、天之道、利而不害、聖人之道、爲而不爭」とも申して居りますが、これがあなたの福田說に當るのです。聖人は財物を積まず、その勞働はすべて他人の爲めにするので鐚一文わが懷中へは入らないが、已愈有することになり、又た持つてゐる物なら他人に與へて仕舞ふが、それが已愈多しといふことになる。斯の世に家を一軒も所有し給はぬ天香さんは、どこへ行つても家には困らぬ、所謂、四海を家となすものである。それに最後の「利して害せず爲して爭はず」はどうです、あなたの生活を說明して餘りありではありませんか。

天香さん「上善若水、善利萬物而不爭、處衆人之所惡、故幾於道矣」は、どうです。これもあなたの生活法の一面を言表したものです、あなたは『だれでも食べるものを食べて、だれでも着るものを着て、だれでも處られるところに處る」と仰しやる、それが、萬物を利しながら、身は衆人のいやがる處に居らる丶、あなたの生活ぢやありませんか。

天香さん、あなたはあなたの新生活を易往而無人だと仰しやるが、老子も「大道甚夷而民好徑」と申して居ります。新しい曙光にめさむること難く、めさめて溫き床の中より、はねおきること更に難し、されど現代の民衆よ、新しき曙光はすでに放たれたり。秋吉山には、のみもて大理石を刻む音聞こゆ、神戸の貧民窟から朝の祈禱の聲も聞こゆ、一燈園諸人の勞作の足音も聞こゆ、これを蓐裡に聞きつ丶、ウツラ〳〵惰眠を貪るは、いかに。

隣家に先つて雨戸だけは繰り明けたる不肖惠之助、いきなり外へ飛出して、近所を叩き起すほどの勇氣はないが、となり知らさず、表てを掃く、椽を拭く。天香さん、あまり獨り言が長くなつてすみません。

當地は、この三四日少し寒さがゆるんだかと思ひます、御地は、いかがですか、流感もボツ〳〵見えかけた折柄、斯道のため、切に御愛護を祈ります。

天香聖者

不持錢寶の聖者生活、御返信の場合にもと存じ郵券を差上げて置きます。

●田沼　勇兄（群馬縣館林町坂本方）突然失禮をも顧みずお伺ひいたします。

私は貴方様の懺悔の生活によつて隨分此れまで救はれて來た一人で御座います。

性來體質の他人に劣つた私は幾分なり奉仕らしい日をおくらしていたゞく様になつて以前より見違へる程健康にさしていたゞきまし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

た。それに付けても一燈園の方々の生活といふものが具體的に私の形の上又精神の上にもお仕込みしていたゞけたら――と日々願つてゐる次第で御座います。

私は二十五歳になる今日まで道に迷つてゐたのですそして貴方によつて始めて確かな道を見付ける事が出來て涙の出る程毎日感謝いたしてをります。

一燈園に入園をお許し下さらば誠に幸甚に存じます。

私は内務省の一官吏の長男として生れ體の弱いため此れといふ教育も受けず神經質で自分としては宗教に生きたい考を隨分幼少の頃から持つてをりました。然し無學のためと體力の關係上兩親もあまり喜ばず、私としても體力と性を養ふ方面にいろ〳〵心を用ひて見ました。その時當方樣の生活を讀みもし聞きもして蔭ながら小さい自分の家の中ではじめて見てその結果に驚いてゐる次第です。

今は社會に此の生活を押擴げて見たいとまで決心する事が出來る位健康になりました。ほんとに御光に救はれたのだと思ひます。今少し深く強く御光に接し御光のために奉仕生活がして見たいと切に貴方樣に入園をお願ひいたします。御多忙中とは御察しゝながら御返事をおもらしの程お待ち申上ます（天香さん宛）

●上村千代姉（山口縣徳山糀町豐島樣方）彼岸と申ながら昨今の御寒さはことの外御きびしく御座候折から御障りもおはしまさず候やと御案じ申上候

扨先日は私如き者の爲に尊き御時間を御割きたまはり御尊顔を拜し奉り其上御[illegible]篤なる御訓話をいたゞき重ね〳〵の御高恩かたじけなく御禮申上候一年近く惱み候事も今は跡かたもなく昨日に變る安らかな心持ちにて日々感謝の日を送らせていたゞき申候先生御出立の後は御訓話を心にくりかへし御光のみ前にてぬかづき御祈りをいたし候、心が散りがちに相成り候頃は御光もにぶり御光がにぶり候時は心もいつしか散りがちに相成り居候御光によつて散りがちの心をかへり見させていたゞき夜は電燈の明りはからず御光に守られてこれまでになき安き眠りに入らせていただき申候廣島より愚姉十六日夕方歸徳いたし候へ共姉の産室を先づ訪れ候まゝ疲かれてそこに泊り十七日正午近く漸く會ひ申候十五日午後から此の時までの時間も思ひの外安らかに過し申候廣島での會見の樣子を聞きすべての人に深く感謝いたし候へ共いつの場合もあまりに惠まれすぎる自分を思い居る爲め新らしい修養への門出をはゞまれし樣の心地いたし何となく恥しき心地を覺え候、十七日午後は初めて醫師の許へ徒歩にて參り候。ラッセルの具合が大層よいとて運動がこの結果をもたらせし如く申され候へ共私は精神の絶對安靜が二日間にかくも奏効いたせし御事と深く喜び申候歸[illegible]後兩親兄等にこの由申候處皆々先生の御蔭と喜び合ひ候事に御座候十五日以後殆ど臥床いたさずこれまでの安靜に引かへ身のまわりは申すまでもなくある時は庭に草を摘み又行く先き〳〵に私の手に叶ふ御仕事これあり一つ〳〵これまでになき清き心持ちにて片づけさせていたゞき申候さりながら長さ習慣から兎もすれば身體をかばひすぎ候事を御はづかしく存じ居候二三日前には少し熱を感じ床に就き申候折から部屋一杯に春の陽をうけ靜かな空氣の中に雲雀の啼く音さへ聞え居候かゝる所にて身も心も安らかに養はせていたゞき候事など思ひめぐらせし時感極まつてホロ〳〵と落涙いたし思はず合掌御念佛申上候これまでとて御念佛はとなへ申候へ共それは思ひあまりあゝどうなる事であらふと思ふ時に稱へしものにてこの時の御念佛とはなかなかの相違に御座候生活に疲れ病にしいたげられしかたくなの私の心がこの數日の變化は誠に奇蹟とも申上度き程に候先生の御力にて暗黑より光明へと導いていたゞき候嬉しさはとても拙き筆にては申盡すべくも候はずこれより一歩〳〵修養の道に入らせていたゞくべく共同生活に入りても人樣の御迷惑にならぬ樣

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

恢復いたし候節は是非一燈園に入れていたゞきたく今より御願ひ申上候
　先は御禮旁右御聞きに達し度く拙き筆にて申上候末ながく隨分御尊體御大事に被遊悩める人々の爲め明るき光を御與へ下され度はるかに御祈り申上候　かしこ（西田さん宛）

●錦織恭道兄（島根縣簸川郡高濱村）　天香さま（すみませんけど、から、呼ばしていたゞくことをお宥し下さいませ）さだめしお疲れの御事とお察し致します。なるたけ多くの人達に縁を結んでいたゞからうと云ふ慾深い考から、何等の反省も自覺もない田舍人を無暗と集めて、矢鱈お話をお願ひ致しまして、今から考へますと、まあ何と云ふ心無い、何と云ふ申譯のないことを致したことやらと、泌々私の無智と罪深さとを思はずにはゐられませぬ。しかしもうそれは過ぎ去つたこと、今更お斷り致しても追ひつきませぬ、どうかお宥し下さいませ。

　それから、松江に於ても、もう少し何とかしやうがあつたことゝ思ひます。二十六日の午前の半日と、その夜とを心からおちついていたゞくために、前以て、何とかしやうのあつたことであらうにと、その日になつて、詮ないことを悔いました、これも、同じく、今更致し方のない過去のことになつてしまひました。お詫びを申上げるだに、淺間しい心が致します。

「何んとかなるだらう、」と云ふやうに考へてゐましたことが、すべての過ちのもとでありました。「何とかなるだらう」と云ふことゝ「お光りまかせ」と云ふことをごつちやにしてゐたことが、間違つてゐました。少しも「人事を盡さ」ないで、「天命を待た」うとしたことが間違つてゐました。幸に、大塚さんなんかのお骨折りがいたゞけたればこそ、それがなかつたら、まだ〳〵濟まぬことであつたと、汗が出るやうであります。

　でも、松江と今市と太田と濱田では、隨分と大きいあるものを與へて下さつたことを、有り難く、嬉しく思はずにはゐられませぬ。濱田の新少佐からも、濱田としては未曾有のことであつたと、お知らせをいたゞきました。今市の議事堂に於けるそれも、同じく滅多無いことであると、色々な人達から聞かされます。草深い田舍人の頭には、殆んど、譯がわからなかつたやうでありますけれども理想と現實の矛盾に悶えてゐる有識階級の多くの人々には、いづれも至大の感動と暗示とを與ふるところのあつたことを疑ふことは出來ませぬ、私も私の理想と寺院生活との間に色々な悶えを持つものであります。それについてもお教へを請はねばならぬと思ひますけれど、しかし、お教へを請ふ前に、私自ら、もう少し、眞劍に考へて見なければなりませぬ。しつかりと悶えて見なければなりませぬ。その上で、また、改めて御指圖を仰ぎたいと願つてゐます。今回の御來縣については、私として、色々感じたこと、申上げたいと思ふこともありますが、それは、またの機會に讓ることゝ致しまして、今日はたゞ、私の、あやまりたいことゝ、有り難く思つたことゝを申上げさしていたゞくだけにとゞめておきますどうか、御機嫌よろしく、福田さま、保太郎さまにも、よろしくお傳へ下さいませ、色々多忙で、別にお手紙も差上げませんかも知れませんから。では左樣たら。（天香さん宛）

●東京市療養所患者御一同　天香先生　から
親しく御よび申す事を御赦し下さい。私共は先生の御名を倉田先生の著書で、新聞紙上で雜誌で、尙先生の御著書に依つて隨分久しい以前から承り敬慕の念を禁ずる能はず、何時か一度は謦咳に接し、求めむとして求め得ざる淋しき心に先生の仰せらるゝ御光りを與へていたゞきたいと願つて止まなかつたのであります。然しそれも望み得べくして叶へらるべきことゝも思はれなかつたのであります。
然るに此の離小島にも等しい小世界へ突然お訪ね下すつたといふことだけでも、私達には此の上もない歡喜でありますのに、親しく御講演に接したばかりでなく各病舍のものが悉

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

く溫顔を拜するの榮を得ましたことは私達に取つて何といふ驚でありまた喜であつたことでせう。

眞の人間苦から出發された絕對愛の奉仕に夜を日に次いで御働きになられても足りない程の御多忙の御體でありながら此の小天地へまでも御心を勞せられる事は何と云つて御禮申上げてよいか。只々愼しい御禱りの感謝をさゝぐるばかりであります。先生、私達の今の生活は、むしろ惠まれた幸福な境遇に在るのです。所長初め多くの職員方が皆親身も及ばぬ程親切にして下さるのですから。

けれども生命の本質が空虛なそして死の恐畏に苛まれて居る身は或は死の恐畏はなくとも病魔の冷い手に心の底までも痛められた身はそれでもまだ溫い愛優しい同情に餓え切つて居るのであります。先生の訪れはほんとうに旱天の雲霓で御座いました。

「病によつて健康の貴さを知る、」眞實病める身となつてつく〴〵健康の貴さを感じました何たる愚な話でありますでせう。健康の時に眞の貴さを、有難さを知り、そして感謝せねばならないものを。生命の根底がぐらついて居る意氣地ない身は、此の永い病魔の爲めに或時はもう生存の意義も何もない、こうして自分達が無爲の生存を續けて居るばかりでなく其の上に多くの物資と人力とを徒費して何時果つべきやも知れぬ生命を續けて居る事が此の上もなくすまない樣な、そして悲しい事の樣に思はれてなりませんでした。雨の日に田をおこす人や、燒きつく樣な夏の日に稻の手入れなぞする人を見、私達が生くる爲めには、あゝした苦しみの結果を何等の償ひもせずに徒食するのだと思ひなどしましては其の感じが一層深くなるばかりでありました。

けれども一度先生の慈顏を拜し、御話をお聽きしましては、今迄の迷ひ、惱みはほんとうに愚の至りであつたと云ふ樣に感じられて來ました。そして自己辯護かも知れませんがこんな考へを以つて、今の境地を解し慰めて居ります。私達は、皆因果の理法によつて生在して居るものだ、有象無象宇宙一切の實在は皆必要なればこそその事象だ、一本の草にも生存の意義はあり、一滴の水にも存在の意義はある、して見れば私達の存續にも健康の時にばかり意義があり、病む身となつて其の意義がないと云ふ法はない、今の境遇もやつぱり必要なればこそ與へられた生活なのだ、自分達は生くる事に無理があつてはならぬ、與へられた運命には從順であらう、求むるにも與へるにも無理のない樣な生き方に努力しやう。弱い自分達にはこんな考へがすでに無理かも知れない。或は全々これに反した心持になり、又は行爲をする事があるかも知れない然しそれも致し方がない。そんな事に氣が付いた時には只々靜かに御祈りをするばかりだそして心が落着いてからまたさきの心持に向つて努力しやうと云ふ樣な——

何たる蟲のよさでせう、でもこれがせい一ぱいなので御座います。

先生、先達は貴い御奉仕に對して當所から御禮を差し上げましたにも係らず御うけ下さらないで、少しでも私達に歡を分與へてやらうとの御心持からこそ私達の食膳を賑はして下さいましたのだと承つて感激しました。只さへ感傷的になつて居ります弱者の心に何といふ優しい慰めであり、溫い潤ひで御座いましたでせう。もつと早く御禮申上げなくては申譯なかつたのですけれども多勢の事とて如何にして總ての人達の感謝の意を云ひ現はさむかになやみ遂にすまぬ心持のうちに日を過しこんなに後れてしまひました事を幾重にも御詫び致します。

御慈心に甘へての御願ひでご座いますが、御聞きしますれば只今東京に御出とのこと御多忙中御迷惑で御座いませうけれど是非また御足勞下すつて御慈顏を拜し、御話を承るの榮を得させていたゞけませんで御座いませうか。御願ひが叶ひますれば私達一同此の上もない喜びで御座います。

この前御出で下すつてからずつと御同人の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

方々によつて先生の御主意御話等を實踐的行爲により、毎日無言のうちに説明していたゞいて居る私達は何たる幸福者で御座いませうそれは自分達が蝕まれたる肉體の所有者であるが爲めに思ふ心を實行し得ぬ惱みは感じますけれども、それ等は皆自分達の望むべからざるを求むるのだと考へ至ります時には、そうした惱みは消え只々有難い感謝の念のみ湧き立ちます。（天香氏宛）

●野田つぎを姉（福岡縣） あゝほんとに西田先生私はほんとに、先生の下座奉仕の生活に對して、ほんとうに感謝に絶へ得ない一女學校の生徒で御ざいます。

或會社で御話を聞かして下さいと申された時「托鉢させて下さい奉仕さして下さい」まあ何といふ神々しい事であらう。

あゝほんとうに神樣だ、私はほんとに先生に感謝して居るので御ざいます。私は先生に習つて一週に一度はきつと社會奉仕日を定めてやつて居ります。これも矢張り先生の間接の御教訓に外ならないで御ざいませう。

先生の今の輝いた光明生活に入られるまではどんな氣持で居られたでせうか。私も少しでも先生に似た生活を致したいと思ひます三月號の婦女界の記事「一先妻に見捨てられた西田天者師の下座奉仕の生活」を讀んだ私は奉仕の事業の事を作文に書いた時、私はほんとにほめられました。ほんとに西田先生の御蔭だと感謝にたへないです。先生私は間接の御教訓を御禮申し上げます。

私等の學校の校長先生も何時が此所へ御出でられた時にはきつと御話をして頂きたいと申して居られました。（天香氏宛）

●立山不退兄（福井縣鯖川西養寺方より） 禮拜 昨日正午無事到着午後は境内の御掃除やら彼處こゝを手傳はさしてもらひ昨夜車中の立ち詰めの疲れもあれば早く寢ませて頂きました本朝はよい氣持で起き出でゝあちこちと箒や雜巾を運ばしてもらひました何を申しましても古い因襲の跡で御座います諸行無常の鐘聲も一灯園の木魚程には反響しませぬ右にも左にも行きつまつて行場のなくなつてゐる渾沌の中に光をいだきしめてはつきりと歩ませて頂いて居ります自分の姿が我れ乍らも尊く感ぜられます光に惠まれてゐるんだ阿彌陀樣が居て下さるんだもの祈らずにゐられぬどうして〳〵お念佛せずにゐられませぬ一寸感付いた所もありますればこれから本堂に斷食參籠いたします。

親鸞聖人の御言葉も偲ばれでうれしうお念佛さして頂いて居ります『たとひ大千世界にみてらん火をもすぎゆきて佛の御名を聞くひとはながく不退にかなふたり』『不退の位すみやかに得んと思はん人は皆恭敬の心に執村して彌陀の名號稱すべし』

光に得しわが名にそひ奉るにたとひ大千世界にみてらん火をもすぎゆきて光に歩み恭敬の心に執持して御念佛稱ひさして頂くこそこよならうれしく思はれます北の國の雪空をとほして師の導姿を拜して居ります南無阿彌陀佛三拜（天香氏宛宛）

◇編輯だより 『光』の愛讀者乃至一燈園生活の共鳴者を中心に『光の友の會』とでもいつたやうなものを各地に組織してはとの希望が同人の間に燃え出してきて居る。既に具體化して『玄光社』の誕生を見た。東京では會の組織とか仕事とかについて御意見をお持ちの方はどうぞ左記へ御申越し願ひたい。（東京市外戸塚町字上戸塚五八〇玄光社内松下吉衞）

大正十一年五月十五日印刷（代金二十錢）
大正十一年五月十五日發行（郵送料不要）

東京市牛込區原町三丁目五十三番地
編輯兼發行者
兼印刷人　中桐確太郎

印刷所　株式會社一匡印刷所

東京市牛込區原町三丁目五十三番地
發行所　東京宣光社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

内田魯庵
有島武郎
鑑選

杜翁記念文庫

泰西名著選集
百五十巻の内

第十八篇

レッシング著 柳田泉譯

ラオコーン

これボザンケが畢世の大著『美學史』に於て『詩美と畫美との關係を論ぜる名篇』と推稱せしラオコオンの全譯也。古代希臘藝術の精髓此によつて闡明され、近代批評の基礎茲に初て確立されぬ。華麗なる高山樗牛の論文を初め明治大正の文藝史、これが啓發を受けたる事幾何ぞや。氏の譯は最も完全なる獨文全集に據り傍ら英佛譯を參照して、精嚴一字をも忽にせず。柳田

四六版四百二十頁
ラオコオン寫眞版
定價貳圓五拾錢
送料金拾四錢

(一) 論文集 ショウペンハウエル著 佐久間政一譯
(二) 耶蘇の生涯 エルネスト・ルナン著 加藤一夫譯
(三) ハムレットとドンキホーテ ツルゲーニエフ著 宮原晃一郎譯
(四) 人生の哲學 ヰリアム・ゼームス著 小野實譯
(五) 大自然と靈魂の對話 レオパルヂ著 柳田泉譯
(六) 靈魂帶 ストリンドベルヒ著 木村毅譯
(七) 人生と草花 マーテルリンク著 土居通彦譯
(八) 信仰と未來 マッツィニ著 宮原晃一郎譯
(九) 十一月の枝 ホイットマン著 柳田泉譯
(一〇) 自然人の冥想 トロウ著 柳田泉譯
(一一) 隨感錄 パスカル著 加藤一夫譯
(一二) トルストイの生涯 ロマン・ローラン著 宮島新三郎譯
(一三) ルネサンス ペエタア著 佐久間政一譯
(一四) ヘレニズムとヘブライズム アーノルド著 中村詳一譯
(一五)(一六) ヒータアとアレキシス(上・下) メレヂコフスキ著 柳田泉譯
(一七) 黎明期の思想家 ブランデス著 宮原晃一郎譯

一巻より四十巻まで一冊金貳圓六拾錢
二巻より四十巻迄並製あり一冊金貳圓
十五巻以下一冊貳圓五拾錢

圖書目錄 進呈
東京神田 表神保町
春秋社
振替東京二四八六一
電話神田二一三八

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN